

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 瀬戸小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標 児童・職員アンケート(6⇒11⇒1月) 保護者アンケート(7⇒12月)予定	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							口指標に係る取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	口指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
3	課題発見・ 解決力の育 成とコミュ ニケーション 力の向上	★	継続	単元を通して、 学びの広がりや 深まりを引き出 し、学力の伸び につなげてい く。	○「挑戦・追求教科(国・算)・単 元」(自ら選ぶ・決める)を基に、 研究授業(上・下半期各1回以 上)・協議、研修+日々の工夫・改 善を進める。 ○単元構想(単元を貫く問い・学習 課題→学習評価等)を基に、子ども 主体の学びを「引き出す・つなぐ→ 広げる・深める」授業展開を工夫す る。 ○各学年で「付ける力(国・算)」 と取組・指導・支援を具体化し、進 捗状況確認→改善(上・下半期各1 回)を進める。	○児童アンケート4項目で肯定的評価80%以 上。 ①自ら問い(なぜ・どうして?)を持 ち、(つなげて)考えている。 ②考えたことなどを、伝え合い・聴き (訊き)合いながら、広げたり・深めたり している。 ③(見通しを立てたり、振り返ったりし ながら)粘り強く学んでいる。 ④「分かった・できた・面白い!」と感 じる場面がある。 ○職員アンケート「目の前の子どもたちの学 力(3つの柱)は伸びている(学力調査、 児童の振り返り、手ごたえ等)」肯定的 評価80%以上。								
2	多様性を認 め合い、よ りよくかか わる児童の 育成		継続	安心感・自己効 力感、思いやり の心を引き出 し、行動化でき る児童を育て る。	○感染防止対策を講じながら、子ど も主体の集団活動(行事・集会等)児童 会・委員会・クラブ活動等)と指導・ 支援を工夫し、評価・改善を「見える 化」する。 ○日々の学級活動(朝・終わりの会、 掃除・給食等)と、学活・道徳・行事 を関連付ける(振り返りの活用等)。 ○連続欠席・遅刻の未然防止・初期 対応に係る取組・支援を、組織的 に・何回かに・粘り強く続ける。	○児童アンケート4項目で肯定的評価80%以 上。 ①クラスで、安心して過ごせている。 ②クラスの役に立つこと(〇〇係・名人 等)を、1つ以上がんばっている。 ③出会った人の心に届く、あいさつをし ている。 ④そこを使う・通る人のことを考えて、 ていねいにそうじをしている。 ○連続欠席・遅刻の減少								
2	運動が好き な児童の育 成		継続	「運動すること は楽しい・面白 い」と実感でき る学習活動と評 価を工夫し、運 動が好きな児童 を増やす。	○感染防止対策を講じながら、体育 授業や外遊び等で、「多様な他者と よりよく関わることの楽しさ」「体 力・技能向上の喜び」「練習やルー ルを工夫する面白さ」等が実感でき る学習活動と指導・支援を工夫し、 評価・改善を「見える化」する。 ⇒学習方略の獲得 ○体育授業で、自己ベストをめざす学 習活動と指導・支援を工夫し、評 価・改善を「見える化」する。 ⇒非認知能力(やり抜く力等)の向上	○児童アンケート3項目で肯定的評価80%以 上。 ①友だちとかわり合って運動すること は、楽しい。 ②自分たちで、練習やルールなどを考 え・工夫して運動することは、面白い。 ③運動が好き。 ○体力テスト(5月→再テスト12~1月)で、 自己ベスト更新児童80%以上(重点種目・ 時期・取組⇒各学年で設定・実施・分 析・改善)								
3	信頼される 学校づくり の推進		継続	学びづくりに向 かう時間を生み 出し、子ども の姿で保護者・地 域とつながる。	○「学びづくり」に向かう時間を生 み出すために、働き方や時間管理の 目標・見直し(月・週別)を立てる <各学年・分掌、各自> ○子どもたちの学びの姿・成長等を 発信・共有し、保護者・地域とつな がる。	○職員アンケート①働き方の工夫・改善を進 めながら、「学びづくり」に向かう時 間を生み出している。②保護者と、子ども の姿(学び・成長・課題解決の見直し 等)を共有している」肯定的評価を 80%以上。 ○時間外勤務 月45時間・年間360時 間を超えない職員を0に近づける。 ○保護者アンケート「日々の授業や行事等 を通して、我が子は成長している」肯定的 評価80%以上。								

【プロセス評価の評価基準】

【達成評価の評価基準】

【総合評価の評価基準】

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。